

これまでの常識を進化させる
いくつかの非常識

再起動



SEASON 3
スタート!

就労支援フォーラム NIPPON 2024

2024.12.14 sat – 12.15 sun

東京ビッグサイト リアル開催のみ 1,000名



SEASON3は 初心から

「就労支援フォーラムNIPPON」は今年で11年目。

10年間を総括した前回でひとつの区切りをつけ

ここから新たなシーズンへ突入します。

いま、あらためて初心にかえり、

「何のための就労支援なのか?」を再確認するとともに

不要なものを脱ぎ捨て、新たに必要となるものを獲得することで

再起動を図る契機とします。

今回もリアル開催のみとし、オンライン配信は行いません。

12/14(土)15(日)の2日間、東京ビッグサイトにて

直接・対面で徹底的に議論を戦わせ、交流を深め、

全力で未来へ進みます。

就労支援フォーラムNIPPON

hataraku-nippon.jp/archive/forum/

障害のある人の「働きたい」を実現するために、工賃の低さや一般就労への移行をはじめとする諸課題の解決に向けて、事業所、企業、自治体、行政、医療、研究・教育機関など、障害者就労支援にかかわる関係者が全国から集い、学び、情報交換を行う、日本最大の障害者就労プラットフォームです。2014年から毎年12月に東京で開催し、延べ2万人以上の参加者とともに、支援者のスキルアップ、既存の施策のチェック、安易な動きへの警鐘などを主題に議論を重ね、現場に、国に、具体的な改善を働きかけています。過去10年間のプログラムを公式サイトでご覧いただけます。



就労支援フォーラム NIPPON 2024

12.14 [SAT] 1日目

12:00 開場

13:00 オープニング

後援あいさつ 伊原和人 (厚生労働省 事務次官)
主催者あいさつ 尾形武寿 (日本財団 理事長)

13:15-14:00 基調セッション

「僕は運転免許を取りに行きはじめて」

白石圭太郎 (社会福祉法人チャレンジドらいふ 理事長)
菊地真寿美 (ソーシャルファーム大崎 工場長)
大沼勇人 (ソーシャルファーム大崎 社員)
[進行] 竹村利道 (日本財団公益事業部 シニアオフィサー)

14:05-15:05 基調ディスカッション

「ビジネス感覚と福祉ビジネス」

藤田英明 (一般社団法人全国障害福祉事業者連盟 理事長)
市川 亨 (共同通信社特別報道室 編集委員)
尾仲希代 (株式会社JALメンテナンスサービス 社員)
[進行] 竹村利道 (日本財団公益事業部 シニアオフィサー)

15:20-16:00 行政説明

「厚労省課長への質問」

伊藤洋平 (厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部障害福祉課 課長)
西澤栄晃 (厚生労働省職業安定局障害者雇用対策課 課長)
[進行] 遠藤千冬 (一般社団法人日本作業療法士協会制度対策部 部長)

16:05-17:05 パネルディスカッション①

「WORK! DIVERSITY政策実現に向けて
～自治体はどう動く～」

杉野みどり (名古屋市長)
伊藤哲也 (宮城県 副知事)
辻 邦恵 (豊田市 副市長)
後潟和也 (福岡県福祉労働部 労働局長)
[進行] 柴橋正直 (岐阜市長)

17:15-19:30 プレゼンテーション

一般選考 (6題程度)
ピックアップ
「新たな領域～障害という芸術価値～」

丸山晴生 (アヴニールプロダクション (知的・身体障害者専門芸能プロダクション) 俳優)
[進行] 遠藤千冬 (一般社団法人日本作業療法士協会制度対策部 部長)

12.15 [SUN] 2日目

9:00-10:30 分科会I

※①～④は4会場で同時進行／定員あり／事前登録制

① 魅せる! 福祉的就労の新しい「カタチ」
～障害者だからという付加価値 (スティグマ) からの脱却～

藤本光浩 (一般社団法人マジェルカ 代表理事)
釘宮謙悟 (社会福祉法人博愛会第一博愛寮 施設長)
[進行] 三浦舜平 (上智大学総合人間科学部社会福祉学科 4年生)
[進行] 執行健太郎 (上智大学総合人間科学部社会福祉学科 4年生)

② デジタル業務で活躍する知的障害者
～固定観念を打破したその支援力に学ぶ～

長田雅行 (社会福祉法人北九州市手をつなぐ育成会 経営管理部経営戦略課 課長)

横田博之 (社会福祉法人北九州市手をつなぐ育成会 デジタル化事業 統括責任者)

瓜生真治 (社会福祉法人北九州市手をつなぐ育成会 デジタル化事業 現場責任者)

金澤有佳 (就労継続支援B型インクルとばた 利用者)
南里光一 (就労継続支援B型インクル小倉北 利用者)
[進行] 藤田和利 (社会福祉法人北九州市手をつなぐ育成会 経営管理部 部長)

③ 工賃向上最後のチャンス?
～新・優先調達～

高江智和理 (NPO法人日本セルフセンター 会長)
城 貴志 (NPO法人滋賀県社会就労事業振興センター 理事長)

高橋宏和 (社会福祉法人東京コロニー コロニー東村山 所長)
[進行] 竹村利道 (日本財団公益事業部 シニアオフィサー)

④ 就労移行の新たな戦略

家住教志 (株式会社シーアイ・パートナーズ 代表取締役)
寺脇康祐 (株式会社日本電商 取締役会長)
浦久保康裕 (株式会社一心社 代表取締役社長)
[進行] 遠藤千冬 (一般社団法人日本作業療法士協会制度対策部 部長)

11:00-12:30 分科会II

※⑤～⑧は4会場で同時進行／定員あり／事前登録制

⑤ 合理的配慮で障害者の
働きやすさは向上しない
～同僚としての人間関係を構築することは可能か～

内山浩文 (株式会社NTT Sports X 取締役 チームマネジメント部 部長 兼 浦安D-Rocks ゼネラルディレクター)

諸葛 彬 (株式会社NTT Sports X チームマネジメント部 浦安D-Rocks ソーシャルデザインアシスタント)

小澤綾子 (シンガーソングライター・社会活動家)
富永美保 (NPO法人しんせい 理事長)

[進行] 丸山 桂 (上智大学総合人間科学部社会福祉学科 教授)
[進行] 川口実紅 (上智大学総合人間科学部社会福祉学科 1年生)

⑥ 介助付き就労について考える
～当事者を主体に～

油田優衣 (NPO法人日本自立生活センター 当事者スタッフ)
宮路拓馬 (自由民主党 衆議院議員)
天島大輔 (れいわ新選組 参議院議員)
[進行] 嶋田拓郎 (一般社団法人わをん 事務局長)

⑦ 共同作業場のススメ

佐野望美 (NPO法人鳥取県障がい者就労事業振興センター 鳥取事務所 ワークコーポとっとり 事業統括)
田中達也 (福岡県障がい者就労支援ホームあけぼの園 施設長)
松下知宏 (社会福祉法人鳥取福祉会うぶみ苑多機能型事業所 主任生活支援員)
[進行] 三善史博 (NPO法人セルフセンター福岡 統括事業責任者)

⑧ 多様な就労困難者支援の時代
～WORK! DIVERSITYは制度化するか?～

原田自由 (厚生労働省障害者雇用対策課 課長補佐)
鈴木由美 (厚生労働省社会・援護局地域福祉課 生活困窮者自立支援室 就労支援専門官)
犬丸智則 (厚生労働省社会・援護局地域福祉課 地域共生社会推進室 支援推進官)

清野侑亮 (NPO法人シゴトシンク北海道 理事長)
酒光一章 (一般社団法人ダイバーシティ就労支援機構 理事)

[進行] 今尾武嗣 (日本財団公益事業部国内事業開発チーム リーダー)

13:30-14:10 パネルディスカッション②

「福祉的就労をやめる⇄本気の就労支援
を始める～就労継続A型廃業問題も含めて～」

公募応募者4名
[進行] 竹村利道 (日本財団公益事業部 シニアオフィサー)

14:15-14:45 特別講演

「日本一小さい営業マン
～明るく・楽しく・ポジティブに～」

山崎海斗 (株式会社エー・ワイ・エス PR営業部)

15:00-15:55 パネルディスカッション③

「共生社会 Ver.2025
～はたらくことをあきらめない～」

斉藤 猛 (江戸川区長)
山中光茂 (医療法人社団しろひげファミリー しろひげ在宅診療所 院長)
塚本さやか (NPO法人東京ソテリア 就労部門運営管理)
[進行] 木村弥生 (日本財団公益事業部 アドバイザー)
[進行] 竹村利道 (日本財団公益事業部 シニアオフィサー)

15:55-16:00 エンディング

※プログラム、登壇者は予告なく変更される場合があります

全体会 PLENARY SESSION

12.14 [SAT] 13:00-19:30 | 12.15 [SUN] 13:30-16:00

基調セッション

12.14 [SAT] 13:15-14:00

僕は運転免許を取りに行きはじめた

誰のために何のために就労支援はあるのか？ その答えの一端を、低工賃なのに事業者収入はあるという福祉的就労をやめ、一般就労化するという決断をした法人が宮城県にあります。利用者だった障害者は労働者となり、丸めがちだった背中が伸び、やりがい語ってくれます。次に会った時、彼は「運転免許を取りに行きはじめた」と伝えてくれました。「うそだ」と返しそうな言葉を含み込み、就労支援の本質を見た思いが胸が熱くなりました。その彼を交えた基調セッションで、いまあらためて私たちはなぜ彼らのそばにいるのか？ について考えてみたいと思います。



白石圭太郎
チャレンジドらいふ



菊地真寿美
ソーシャル
ファーム大崎



大沼勇人
ソーシャル
ファーム大崎



〔進行〕 竹村利道
日本財団

基調ディスカッション

12.14 [SAT] 14:05-15:05

ビジネス感覚と福祉ビジネス

巷には、障害者が商品として、制度が金儲けのために取り扱われる事例が多くあります。そして、新たに紹介業という形態も現れてきました。福祉にはビジネス感覚が足りませんが、福祉ビジネスとなると話は別だと思います。現状を知り、警鐘を鳴らすべきと考え企画したものです。みなさんはどう考えるでしょうか？ あなたは何のために就労支援を行っていますか？



藤田英明
全国障害
福祉事業者連盟



市川 亨
共同通信社



尾仲希代
JALメンテナンス
サービス



〔進行〕 竹村利道
日本財団

行政説明

12.14 [SAT] 15:20-16:00

厚労省課長への質問

最新の障害者就労支援の施策と今後の動向を把握するために定番となっている行政説明。例年、説明終了後に質問や意見が厚労省に対して多く寄せられていることを受けて、今回は定番のこのプログラムを説明から質問にひっくり返してみました。事前に寄せられた質問を福祉、労働のそれぞれの側面で管轄する両課長にお答えいただき、みなさんの理解を深めていただきたいと思います。

※質問は下記までお寄せください
forum_nippon@tobutoptours.co.jp



伊藤洋平
厚生労働省
障害福祉課



西澤栄晃
厚生労働省
障害者雇用対策課



〔進行〕 遠藤千冬
日本作業療法士協会

特別講演

12.15 [SUN] 14:15-14:45

日本一小さい営業マン ～明るく・楽しく・ポジティブに～

「はたらく」ということの喜びはこういうことなんだとあらためて実感します。そして「はたらかたい」という願いをもつ人の支援にかかわるということは、こういう喜びを知っているからなのだという忘れがちな原点が蘇ります。短い講演ですが、彼のフルサイズの人生を体感してください。



山崎海斗
エー・ワイ・エス

パネルディスカッション①

12.14 [SAT] 16:05-17:05

WORK! DIVERSITY政策実現に向けて ～自治体はどう動く～

制度化を目指し、2019年からスタートしたWORK! DIVERSITYプロジェクト。これは障害者就労支援サービスをひきこもり、刑余者等、多様な就労困難者にも適用すれば、もっと多くの人が働きやすくなりませんか？ というシンプルかつハードルの高い提案です。仮説でしかなかったこのアイデア、全国6都市で実施されてきたモデル事業が、大きな成果を示し始めました。モデルで終わるのか、恒久的制度となるのか？ このセッションでは、提言のための政策実現会議議長の柴橋岐阜市長およびモデル事業実施自治体からの登壇で政策化の議論を行います。



杉野みどり
名古屋市長



伊藤哲也
宮城県副知事



辻 邦恵
豊田市副市長



後潟和也
福岡県福祉労働部
労働局長



〔進行〕 柴橋正直
岐阜市長

パネルディスカッション②

12.15 [SUN] 13:30-14:10

福祉的就労をやめる ⇄ 本気の就労支援を始める ～就労継続A型廃業問題も含めて～

基調セッションのチャレンジドらいふに触発されたか、または原点に立ち返ろうとしただけなのか、福祉的就労をやめ、利用者を労働者に変えていく事業を模索する人たちがいます。その本質は、“福祉ビジネス” 寄りの助成金のためなのか？ 雇用というものは利益があってこそという“ビジネス感覚” 寄りなのか？ 本セッションでは、そもそもなぜ障害者就労支援を行うのか、そしてどこを目指すのか、話題の「就労継続支援A型の廃業」の視点も含め、再起動を図る議論を目指します。



〔進行〕 竹村利道
日本財団

※プログラム、登壇者は予告なく変更される場合があります

パネルディスカッション③

共生社会 Ver.2025 ～はたらくことをあきらめない～

首長自ら多様な就労困難者への支援策を構築する江戸川区。元首長で開業医が、ひきこもりだった人をスタッフとして始めた駄菓子屋。このまちは包摂的で多様性のある次世代の共生社会の可能性を秘めています。障害者のみならず、生きづらさを抱えた人が、はたらくことをあきらめない事業づくりについて、新たに着手した事業から今後の展開まで、フィージビリティ(実現可能性)のある着地を図ります。



斉藤 猛
江戸川区長



山中光茂
しろひげファミリー



塚本さやか
東京ソテリア



〔進行〕 木村弥生
日本財団



〔進行〕 竹村利道
日本財団

プレゼンテーション

12.14 [SAT] 17:15-19:30

一般選考（6題程度）

ピックアップ

「新たな領域 ～障害という芸術価値～」



丸山晴生
アヴニール
プロダクション



〔進行〕 遠藤千冬
日本作業
療法士協会

この「プレゼンテーション」枠は、多くの人にはまだ知られていない、しかしいまこそ知られるべき価値ある実践を紹介するプログラムです。毎年、全国各地から多数のエントリーをいただいています。今年は「再起動」をテーマに、前例にとらわれない取り組みや、事実を更新する活動に関するプレゼンテーションを期待しています。また、ピックアッププレゼンとして、丸山晴生さん（アヴニールプロダクション（知的・身体障害者専門芸能プロダクション）俳優）によるプレゼンテーション「新たな領域～障害という芸術価値～」にも要注目です。

プレゼンテーション企画へのエントリーを募集します

応募 A4片面1枚の「抄録」をメールでお送りください

募集対象

- 今年のテーマは「再起動」です
- 便宜上の分類として、カテゴリーをいくつか示しますので、参考にしてください
- ただし、下記に含まれないものや、複数のカテゴリーを横断する取り組みも大歓迎です

◎工賃・賃金向上

◎職場定着支援

◎医療との連携

◎企業内の工夫

◎発達障害支援

◎支援人材育成

◎重度障害者就労支援

◎新業態の開発

◎特別支援学校との連携

◎当事者活動

◎一般就労促進

◎家族支援

応募方法

- 事業所の紹介や取り組み内容を要約した「抄録」を作成して、ご応募ください ※「抄録」は当日の資料集に掲載します
- 「募集要項」（抄録様式付き）を公式サイト【hataraku-nippon.jp/forum-2024】でダウンロードして必要事項を記入のうえ、募集要項に記載の方法で送付してください

募集期間

2024年10月1日（火）～10月31日（木）



発表 12/14（土）に12分間のプレゼンテーション

発表までの流れ

- 募集期間終了後、日本財団で選考し、選考結果を通知のうえ、発表者には、発表方法の詳細を記載した発表要項を送付します
- 事前にパワーポイントでプレゼン資料を作成していただきます（16：9サイズで書式は自由。シートは12枚まで。動画の使用は不可）
- 発表方法や事前の準備については、運営事務局がサポートします

発表当日

- プレゼンテーション企画で発表していただきます（応募から選ばれた6題を想定）
- 発表は各12分間、その後、進行役や発表者同士によるセッションや参加者との質疑応答を行います
- 発表は複数名で行うことが可能です ※ただし、発表者1名以外は「就労支援フォーラムNIPPON 2024」への参加申込が必要です ※また、発表者1名のみに「東京ビッグサイト」までの旅費交通費（原則として実費）を支給します

プログラム「プレゼンテーション」内での発表に選ばなかった応募についても、公式サイトにて紹介するほか、1分間プレゼンテーションとしてフォーラム開催中に繰り返し投影し、さらに会場内にパネル展示するなど予定しています（応募総数や内容等により選考させていただくことがあります）

分科会 SECTIONAL SESSION

12.15 [SUN] 9:00-12:30

分科会I

12.15 [SUN] 9:00-10:30

※①～④は4会場で同時進行／定員あり／事前登録制。フォーラム参加申込時、参加希望のプログラムをご登録ください。

1

魅せる！ 福祉的就労の新しい「カタチ」

～障害者だからという付加価値（スティグマ）からの脱却～

福祉的就労では「障害者が一生懸命作りました」と情に訴える手法が主流で、商品そのものの価値が評価されにくい状況にあります。結果、収益が上がらず、工賃や収入が低い状況が続いています。これから障害者の社会参画を保ちつつ、商品やサービスの正当な評価と適正価格での流通を図ることが必要です。福祉的就労を福祉サービスではなくビジネスとして捉え、商品の価値に焦点を当てることで障害者の収入や働き甲斐の向上を目指す新たな福祉的就労の方向性を示します。



藤本光浩
マジェルカ



釘宮謙悟
博愛会



三浦舜平
上智大学



執行健太郎
上智大学

〔進行〕

〔進行〕

2

デジタル業務で活躍する知的障害者

～固定観念を打破したその支援力に学ぶ～

これはこのプログラムの紹介文ではなく登壇者に向けた主催者からの反省文です。

(1) 知的障害者にデジタル業務の中核作業はできないと思い込んでいました。(2) 知的障害者は軽作業が向いていて安定すると思い込んでいました。(3) 知的障害者は都度指示が必要で提案をすることなどできないと思い込んでいました。

固定観念のまま、支援が行われること、それはその人の人生の可能性を奪うことだと再認識しました。このセッションで、どこまで伝わるでしょうか？当事者の語る「自分の仕事」に耳を傾けましょう。



長田雅行
北九州市手をつなぐ育成会



横田博之
北九州市手をつなぐ育成会



瓜生真治
北九州市手をつなぐ育成会



金澤有佳
インクルとばた



南里光一
インクル小倉北



藤田和利
北九州市手をつなぐ育成会

〔進行〕

3

工賃向上最後のチャンス？

～新・優先調達～

2013年から施行された「国等による障害者就労施設等からの物品等の調達の推進等に関する法律（障害者優先調達推進法）」は、国や地方公共団体等が率先して障害者就労施設等からの物品等の調達を推進するよう、必要な措置を講じることを定めたものです。発注の実際は、関連する政令の関係で上限額が決まっていた。その改正が果たされたことを知る事業者は少ないのですが、いち早くその機会を生かし、大型発注を実現し始めています。工賃向上最後のチャンスかもしれません。



高江智和理
日本セルフ
センター



城貴志
滋賀県社会就労
事業振興センター



高橋宏和
東京コロニー



竹村利道
日本財団

〔進行〕

4

就労移行の新たな戦略

就労移行支援事業を実施しながら、いまだ就労実績がない事業者が多数存在します。実績はあっても、法定雇用率の追い風に乗り、中途半端な支援で戦力とは言えないレベルで就職が果たされることも少なくありません。そこに新たに「特定企業型訓練校」と銘打った就労移行支援で実績を上げている戦略家があります。その実践から学ぶことは、その手法そのものではなく、ただ漫然と座学を繰り返す、定まらないターゲットのまま面接を繰り返す、といった就労移行支援の見直し、再起動にほかなりません。



家住教志
シーアイ・
パートナーズ



寺脇康祐
日本電商



浦久保康裕
一心社



遠藤千冬
日本作業
療法士協会

〔進行〕

※プログラム、登壇者は予告なく変更される場合があります

分科会II

12.15 [SUN] 11:00-12:30

※⑤～⑧は4会場で同時進行／定員あり／事前登録制。フォーラム参加申込時、参加希望のプログラムをご登録ください。

5

合理的配慮で障害者の 働きやすさは向上しない

～同僚としての人間関係を構築することは可能か～

合理的配慮だけで障害者の働きやすさは向上するのでしょうか。最終的に重要なことは、職場における良好な人間関係の構築だと考えます。しかしながら、現状は「腫れ物に触る、触られる」関係で社員同士のあたりまえの同僚感覚にはほど遠いと思われます。同僚である感覚があれば、「法令があるから」ではなく「仲間が働きやすくなるように」と日常的に配慮が生まれるのではないのでしょうか。本セッションでは、「職場のあたりまえの人間関係の構築」を図るために必要な視点について、企業で働く障害当事者、同僚となる一般就労者、人事、ジョブコーチ等、現場で働く人々のリアルな意見や経験を共有し現場目線で協議します。



内山浩文
NTT
Sports X



諸葛彬
NTT
Sports X



小澤綾子
シンガーソングライター
社会活動家



富永美保
しんせい



丸山桂
上智大学



川口実紅
上智大学

〔進行〕

〔進行〕

7

共同作業場のススメ

障害者施設が集まり、共同作業に従事するというこの方式、正式な制度ではありません。しかし、鳥取県と福岡県で取り組むこの仕組みは、一施設では受注できなかった、もしくはできたとしても対応できなかった業務に従事することで、障害者のやる気を引き出し、工賃も大きく上昇させています。その効用は、障害者のみならず、職員にとっても他の施設職員との交流がお互いの刺激となり、支援力の向上にもつながっています。共同作業場側と施設職員側からの視点を交え、その効果に触れ、地元での構築を目指していただければと思います。



佐野望美
鳥取県障がい者
就労事業振興センター



田中達也
福岡県障がい者
就労支援ホームあげぼの園



松下知宏
鳥取福祉会



三善史博
セルフセンター
福岡

〔進行〕

6

介助付き就労について考える

～当事者を主体に～

勤務中に介助を受けながらはたらく「介助付き就労」について考えます。重度障害者が働くことを想定しない今の日本社会では、まだまだ遠い希望であり、特別なことです。既存の重度訪問介護は仕事に使用できない。会社のルールで同伴不可。さまざまな“常識”や“ルール”について、重度障害者がはたらくということがそろそろ常識となってもいいのではないかとこの視点で考えてみませんか？



油田優衣
日本自立
生活センター



宮路拓馬
自由民主党



天畠大輔
れいわ新選組



嶋田拓郎
わをん

〔進行〕

8

多様な就労困難者支援の時代

～WORK! DIVERSITYは制度化するか？～

働くことに困難を抱えているのは医療モデルで認定された障害者だけではなく、ひきこもりやニート、刑余者など多様な人々が地域で生き生きと働ける仕組み。そのヒントは障害者就労の仕組みにありました。手のひらから零れ落ちる就労困難者への課題意識を持つ厚生労働省の方もお招きし、既存の制度をほんの少し見直してWORK! DIVERSITYを実現する、そんな小さくて大きな社会変革を目指す分科会です。



原田自由
厚生労働省
障害者雇用対策課



鈴木由美
厚生労働省
地域福祉課



犬丸智則
厚生労働省
地域福祉課



清野侑亮
シゴトシンク
北海道



酒光一章
ダイバーシティ
就労支援機構



今尾武嗣
日本財団

〔進行〕

就労支援フォーラム NIPPON 2024

Ctrl+Alt+Del（再起動）～これまでの常識を進化させるいくつかの非常識～

開催概要

- [日時] 2024年12月14日（土）13:00-19:30 | 12月15日（日）9:00-16:00
- [会場] 東京ビッグサイト（東京都江東区有明3-11-1）
- [対象] 全国の障害者就労支援事業者／企業／行政／医療従事者／障害当事者・家族／
そのほか障害者就労支援にかかわる関係者・機関
- [主催] 日本財団
- [後援] 厚生労働省（申請中）
- [定員] 1,000名（会場参加のみ。オンライン配信はありません）
- [参加費] 8,000円（消費税込）

お申し込み

- [申込方法] インターネットでの事前申込のみとなります。詳細は下記サイトでご確認ください
- ※1 | 参加申込Webサイト <https://sec.tobutoptours.co.jp/web/evt/forum2024>
- ※2 | フォーラム公式サイト (<https://hataraku-nippon.jp/forum-2024>) にもリンクがあります



- [申込期間] 2024年11月20日（水）18:00まで



リアル（会場）開催のみで定員が非常に限られており、早い時期から参加申込が殺到する見込みです。
例年、申込締切日を待たずに満員となりますので、くれぐれもお早めにお申し込みください。

お問い合わせ

- [運営] 就労支援フォーラム NIPPON 2024 事務局（東武トップツアーズ株式会社 官公庁事業部）
〒108-0075 東京都港区港南1-8-15 Wビル18F
- [TEL] 050-9014-8426 / 050-9014-8423（9:30-17:30 ※土日祝休業）
- [メール] forum_nippon@tobutoptours.co.jp
- [担当] 尾崎・五十嵐・春田・坂本



「就労支援フォーラム NIPPON」は、新しい就労支援の取り組み「日本財団はたらく障害者サポートプロジェクト」の1つです。本プロジェクトは、いま絶対に乗り越えなければならない課題と、それらに対する出口として具体的な解答やビジョンを示し、着実に実行することによって、障害のある人の「はたらく」を全力で応援します。詳細は公式サイトをご覧ください。



hataraku-nippon.jp